

Better Care

介護新時代の情報誌

[ベターケア]第27号

夏

2004
Summer

「特集」介護する家族に休息を！

介護者サポートネットワークセンター「アラジン」、シルバーインフラオメーションルームなど

■介護する人の「元気」を応援(岡田明三、斎藤千雪)

■家族支援窓口など

●出会いの風景「白神山地・青池」(青森県岩崎村)

●明日に向けてのモノローグ 寺田みのる「画家」

●廣子のカンタン・クッキング「エラライ魚を食べ尽くそう」

●かづきメイクで心も元気「血流マッサージ+紫外線対策」

●ドキュメント

百人百色の介護

所沢市、神戸市東灘区、名古屋市緑区、能代市

もっと気軽に旅をしよう

介護状態になるとどうしても外へ出るのがおっくうになりがち。でも知らない世界を見て感動したり、かつての思い出の地を訪ねて懐かしんだりすることは、心や感情に大きな刺激となり、生きていることを実感させてくれます。さまざまな人との出会いも心を広げてくれます。また普段とは違う行動が日常生活動作(ADL)の向上にも力を添えてくれます。旅は介護される人にも介護する人にも大きな可能性を秘めているように思います。もっと気軽に旅をすることをお勧めします。今回は、そんなことへのヒントになればと、JR東日本とクラブツーリズムに話を聞きました。

■ジバング倶楽部

特典1

新幹線を含むJR線を通算で201km以上利用したとき、JRの運賃・料金が3回目までは2割引、4回目以降は3割引。年間20回利用が可能。ただし割引不可能な列車・設備や期間がある。

特典2

JR東日本の場合、旅の会員誌「ジバング倶楽部」と「大人の休日」を毎月宅配する。歴史探訪、温泉巡り、巡礼など魅力的なテーマの旅情報や、仲間と楽しむ会、趣味の会などの情報が満載。他社も同様の特典あり。

入会条件

男性は満65歳以上、女性は満60歳以上。夫婦どちらかが65歳以上なら夫婦そろって入会可能。年会費は個人会員が3,670円、夫婦会員が二人で6,120円。

申し込み問い合わせ

◆JRの主な駅のみどりの窓口、びゅうプラザ
◆JR東日本の場合:
JR東日本ジバング倶楽部事務局
TEL.03-5806-3155(代)

■ジバング倶楽部特別会員制度

特典

上記のジバング倶楽部会員と同じように利用した場合、乗車券の割引は5割。特急券はジバング割引の対象。第1種身体障害者につきそう介護者も同様の割引(年齢制限なし)。ただし割引不可能な列車・設備や期間がある。また会員誌「ジバング倶楽部」などは配布しない。

入会条件

男性は満60歳以上、女性は満55歳以上。個人会員だけで夫婦会員はなし。年会費は1,010円。

申し込み問い合わせ

◆各都道府県・政令指定都市の
日本身体障害者団体連合会(日身連)加盟団体
◆社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
〒171-0031 東京都豊島区目白3-4-3
TEL.03-3565-3399

第1種身体障害者とは、JRが定めた身体障害者の範囲および種類による。



特典と入会条件などは左表のとおり。

まずその存在が注目される。

性が約六割を占めるといふ。高齢者の旺盛な旅行欲を十分に吸収してくれるありがたいサービスであるし、高齢社会を迎えてますますその存在が注目される。

後順調に会員が増え、今では全国で優に一〇〇万人を超えている。60〜70歳台が中心で、女性の旺盛な旅行欲を十分に吸収してくれるありがたいサービスであるし、高齢社会を迎えてますますその存在が注目される。

JR各社(北海道、東日本、東海、西日本、四国、九州の六社)には「ジバング倶楽部」という高齢者向けの会員制旅行クラブがある。乗車券の割引や旅情報の提供などさまざまな特典がついている。誕生の歴史は古く、約二〇年前の1985年5月で、まだ民営化前の国鉄時代のことである。いわゆるシルバーマーケットを開拓しようという趣旨からだった。その後順調に会員が増え、今では全国で優に一〇〇万人を超えている。60〜70歳台が中心で、女性の旺盛な旅行欲を十分に吸収してくれるありがたいサービスであるし、高齢社会を迎えてますますその存在が注目される。

■JR各社「運賃半額!」「ジバング倶楽部」の特別会員制度を知っていますか

さらに意外にご存知ない情報をひとつ。身体障害者を対象にした「ジバング倶楽部特別会員制度」である。

介護の状態になった場合、ほとんどの方が意識するのが介護保険にかかる事項である要介護度や介護サービス内容といったこと。身体障害者としての手続きについては自分には関係ないと軽視する傾向が強いのではなからうか。実際には、例えば脳血管障害に起因する言語機能障害、そしゃく機能障害、体幹機能障害などの身体障害が多くある。

身体障害者手帳保持者は、JRだけでなく飛行機や高速道路などあらゆる交通機関で大きな特典が与えられている。ジバング倶楽部の特別会員もそのひとつである。年会費が安く、加入年齢も低く設定されている。特典も大きい。表にまとめてみた。身体障害者手帳などを利用しながら、勇気をもって積極的に外へ出かけてみよう。

■バリアフリーが進むJR駅

高齢者や身体障害者に特典があるという「ジバング倶楽部」の恩恵をいくら受けても、その旅の行程で快適な移動環境が与えられていなければ旅は苦痛なものとなってしまふ。最近では観光地や自治体が地域ぐるみでバリアフリーに取り組みケースも多く見られるようになってきた。ホテルなども高齢者や身体の不自由な人に配慮した設備や設計を心がけている。ではJR東日本はどうだろうか。車いす対応の駅のバリアフリーについて聞いてみた。

1998年度から、東京から約五〇km圏内において、特にエスカレーターをサービス向上の基本設備と位置づけて積極的に整備を行ってきた結果、2001年度末には約八割の駅で設置を実現している。

さらに今後は2010年度までに交通バリアフリー法に基づき、整備対象駅(乗降人員500人以上かつ改札とホームの高差5m以上などの駅。エレベーターについては約三九〇駅、エスカレーターについては約三〇〇駅)のすべてのホームに整備することを目標にしている。そのうち03年度末で、首都圏や新幹線を中心にエレベーター約二〇〇駅、エスカレーター約二〇〇駅が整備済みである。これらの設備を駅ごとにまとめた小冊子「駅バリアフリー設備のご案内」を半年ごとに改訂し、配布している。またサイトからPDFファイルのダウンロードが可能だ。

「バリアフリーには終わりが無い。快適な移動のためにエンドレスの整備が続く」というのがJR東日本の姿勢である。設備がないところは、車いすには社員や駅員の人的支援で可能な限りの対応をするという。事前に連絡をいただければありがたいとのこと。



<http://www.jreast.co.jp>



クラブツーリズム／バリアフリー旅行センター ■あそこへ行きたいという夢を現実のものに!

2004年5月1日、クラブツーリズム株式会社が生誕した。近畿日本ツーリストからの独立であった。旅行業の原点に立ちもどり、まったく新しい地平を切り開くための新たな動きはすでに1995年から始まっていた。「仲間と旅を楽しむ、旅で共感し合った仲間が次々と増え、さらに旅の楽しみが広がっていく。それを私たちはクラブツーリズムと呼びます」で始まる「クラブツーリズム宣言」がそれである。旅を通して、心からゆっくりと文化や自然のすばらしさを五感で感じてほしい、新しい出会いや交流をつくり出してほしい。そのためにも旅行業は、もっと自由に旅の楽しみ方を考えていかなければならない、という思想が基盤にある。

現在、東日本、東海、西日本、九州の地域に合わせて三〇〇弱のクラブがあり、三八〇万世帯が会員である。「スケッチクラブ」「酒肴の友」「美味しんぼ倶楽部」「うたごえ倶楽部」「歴史倶楽部」「日本百名山をめざす会」「フラダンスクラブ」「昭和ひとけた倶楽部」「世界秘境クラブ」などクラブは多彩を極め、いきいきとしたツアー活動がある。

そしてなんと、いつも大きな特徴は「エコースタッフ」の存在。月刊のクラブ情報誌「旅の友」を宅配するスタッフで、会員から募集する。ひとり一〇〇〜二〇〇部を自ら転車で地域の会員に手渡しする。健康やエコロジーに配慮し、会員とお互いのコミュニケーションを図ること

る。健康やエコロジーに配慮し、会員とお互いのコミュニケーションを図ること

●バリアフリー旅行センター

数あるクラブの中で特異な位置を占めるのが「バリアフリー旅行センター」である。97年に創設された。高齢のため旅行を諦めている人、障害を持っている人、介護が必要な人、車いすを利用している人などが安心して参加できる旅を提供している。会員は首都圏を中心（旅の起点が東京になるため）に五五〇〇世帯である。

スタッフは一〇名で、年間で国内（平均二泊三日）約五〇、海外（平均七日間）約三〇のツアーを旅行している。平均の参加者は、国内で十五人、海外で一〇人である。98年には、会員の方からの強い要望で、介助を必要とする方のお手伝いをするトラベルサポーター制度が生まれた。このサポーターも研修を終えた会員が務めるというのもユニークだ。現在約七〇名を数える。

旅行センターが創設された時に同業他社から入社した伴流高志さん（33歳）に話を聞いた。

「残念ながら年間二〇名様近くの会員の方が亡くなっています。お顔を思



安心の9つのポイント

- 1 車いすや杖を利用されている方でも安心して乗り降りができるリフト付きバスを用意
- 2 ホテル着後、バスからの重い荷物はツアーコンダクター（添乗員）、ポーターが運びます
- 3 洋式トイレ、いす・テーブル席での食事、ベッドのある部屋を確約
- 4 ホテルをゆっくり出発、早めに到着。観光時間もたっぷりのゆとりあるツアー内容
- 5 ツアーコンダクターは専属スタッフが同行。自由時間などでもできる限り一緒に行動
- 6 募集定員は国内25名、海外15名。バス車内もゆったり
- 7 手動車いす、シャワーチェアの無料貸し出し（国内のみ）
- 8 日帰り交流会では、ツアーの相談にも応じます
- 9 旅行中、介助が必要な方へ「トラベルサポーター」を紹介



旅行者の目線を常に忘れない伴流高志さん

い出します。ご家族の方からあのとときの旅は良かったと聞かされると、もっと多く、思い出に残る旅をご案内したかったと心にくるものがあります。その思いは、来年とか再来年とかの話ではありません。今すぐの企画に反映させなければなりません。その連続です。行きたいという夢を実現していくことが私たちの仕事です」

熱い伴流さんは語る。心の底にあるのは大好きだった祖母への気持ちだ。一緒に暮

らしたことはなかったが、祖母のもとの夏休みの田舎暮らしは、カブトムシ採集や畑仕事に明け暮れ、伴流さんに強烈な印象を残した。年老いていく祖母をいつも頭に描きながらバリアフリーの旅企画が練られていった。その祖母も昨年90歳で世を去った。

現在の企画は宿泊旅行がほとんどだが、旅行を諦めようとしている人、宿泊が不安の人のために、日帰り旅行を増やしていきたいという伴流さん。日帰り旅行も海外旅行も手間は同じだという。とにかく旅行にいくきっかけをつくってもらうには、もっともっと多様な日帰り企画が必要だ。

「お客様に文書や口頭ですべて情報を伝えていくこともバリアフリーだと考えます。ツアー参加が不安なお客さまには、ここには手すりがありませんが、私たちが手伝いますと伝えます。それだけでもバリアが取れると思います。お客様の立場でつねに考えることが大切です」

質の高いサービスの実現には、まだまだやるべきことがあると伴流さん。おしやれをして、おいしいものを食べ、出会いがある。そして人間同士のちよつとした駆け引きもある。ADL（日常生活動作）向上には旅は最高である。「いや旅しかない」という伴流さんの熱意に光あれ。

■問い合わせ
クラブツーリズム
バリアフリー旅行センター
会員になるための入会金・会費はなし。
TEL 03-5323-6915

バリアフリー旅行センターの旅レポートを連載することになりました。二三ページ参照。今回は屋久島の旅です

移動のよろこびを、愛するひとに。

シートが回転・スライドして乗り降りをサポート。

助手席回転スライドシート車 28車種



プリウス

後席回転シート車 5車種



セルシオ(全自動後席回転スライドシート車)

シートが車外へスライドダウン。よりスムーズに乗り降りできます。

助手席リフトアップシート車 24車種



ラウム

サイドリフトアップシート車 9車種



アルファードハイブリッド(脱着タイプ)

車いすのまま
車に乗り降りできます。

車いす仕様車 13車種



シエンタ(スロープタイプ)

足の不自由な方が
ご自分で運転を楽しめます。

フレンドマチック 22車種



エスティマT(ウェルドライブシステム)

※車種数は平成15年5月末現在。※写真の車両には、一部オプションが含まれております。

ウェルキャブは、すべてのトヨタのお店で
ご購入いただけます。車種により取扱いのお店が異なります。

www.toyota.co.jp/welcab

トヨタウェルキャブ総合展示場 トヨタハートフルプラザ

札幌 011-611-8739 千葉 043-241-1488

千葉中央 043-302-8111

東京 03-3332-3811 名古屋 052-400-8739

神戸 078-366-1616

広島 082-501-1222 福岡 092-477-6187

※営業時間、定休日、展示車両については、
各展示場にお問い合わせください。

04年1月よりお客様相談センター365日 OPEN

トヨタ自動車(株)お客様相談センター 0800-700-7700
お気軽にご相談ください。 9時~18時(カタログのご請求は24時間受付)

ウェルキャブで
お出かけしよう。



TOYOTA ウェルキャブシリーズ